

# 大学・民間等の研究施設等廃棄物の 処理事業準備状況

平成27年2月12日  
(公財)原子力バックエンド推進センター

# I . 平成26年度処理事業検討

- 1 . 事業計画検討  
リスク回避策、立地検討
- 2 . 設備検討  
処理設備の具体化、発生者との調整事項
- 3 . 技術検討  
放射能評価手法の検討

# 1. 事業計画検討

① 廃棄物処理事業全体工程の検討

② 資金計画の検討

事業準備資金調達

廃棄物発生者との契約形態

③ 事業リスク回避策の検討

処理事業に先行して実施する集荷保管事業のFS

④ 立地検討

先行事業拠点の立地に関わる適地選定・合意形成の手順

⑤ 事業開始までの工程の検討

課題抽出と詳細工程

## 2. 設備検討

### ① 処理設備の具体化検討

施設レイアウトに影響が大きい以下を検討

- ・オプション設備
- ・角形容器取扱い

### ② 発生者の払出し準備に資する検討

廃棄物受入条件

廃棄物の輸送

在庫管理

# 3. 技術検討

## 廃棄確認に向けた放射能評価

- ①研究炉:放射化量が僅かであり、分析では重要核種の一部のデータが得られない可能性  
→計算の精度向上、検証のためのサンプリングの準備  
(原子力機構委託)
- ②ホットラボ:代表核種の評価値から重要核種量を推定する手法の開発  
→搬入燃料の核種組成計算値と実廃棄物分析値の比較  
(原子力機構委託)
- ③ウラン:簡易に精度よくウラン量評価ができる手法の実用化  
(主要発生5社委託)

## Ⅱ．平成27年度の計画

- 事業詳細計画の作成  
資金調達、要員計画等
- 処理施設の概念設計
- ドラム缶収納廃棄物中のウラン量評価の実証
- 研究炉・ホットラボ廃棄物の放射能評価手法の検討
- 立地に関わる検討